
恋する 乙女の 底チカラ

遼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋する 乙女の 底デカラ

【Nコード】

N0220J

【作者名】

遼

【あらすじ】

中学1年生の加藤綾^{かとう あや}は、バスケット部に所属する元気な女の子。

クラスではムードメーカー的存在で、みんなから信頼されている。

そんな綾には、小学校1年生のころから好きな人がいた。

中学1年、剣道部所属で、目立つのは170ある身長。

今でこそまともになってきたけど、小学校のころはとんでもない生徒で。

でも綾は、そんな彼に惹かれた。

彼の名は、佐藤結城^{さとう ゆうき}。

恋愛なんかまったく興味のなさそうな結城と、8年間同じ男を想い
続けてきた一途な少女、綾の物語が、いま、始まる。

4月。

「ブラックツッパパが走ってる!!!」

ゴミ拾い中、友達と追いかけてたなら男子たちが騒ぎだした。

「おうおう、どーせお前なんかじゃつかまらないぜ!!!」

他の男子もはやし立てる。

「あーもー、うるさいなあ!!!」

だれが走ろうといいでしょうが!!!」

あたし、怒鳴っちゃう。あゝあ、こんなんじゃ全っ然、女の子らしくないよ……。

「だって面白いじゃんか!!!」

「おもしろがらないでよ、もう。」

あたし、頬をぷうっつと膨らませた。

そして、くだらない追いかけてこをやめて、友達とゴミ拾いに戻った。

明日は、中学初めての運動会。

ゴミや大きな石を、みんなが拾ってる。

でも、先生たちも馬鹿だよな。

学校全員で外でてゴミ拾ったって、用無しの人出るに決まってんの
!!!!

ゴミの数は限られてるんだからさ。

そんなくらい、わかんないのかなあ???

あたし、加藤^{かとう}綾^{あや}。12歳。

A型のおとめ座。

めっちゃ新米中学生。

今年中学はいった新米が先生たちを馬鹿にするのも変な話だけど、

あたしは小学校から連絡試験みたいの受けただけで点数悪くても入
れるし、

とにかくあんま遠慮とかない。

中学はいつてそうそうついたあだ名は、「ブラックツッパパ」。

あたしはそこら辺にいる中学生みたいにスタイルが良くない。

だから、「何でもすいこんじゃうブラックホールみたいな頭」

「クツパみみたいな外見」

「バカボンのパパ」 不明

を合わせてブラックツッパパなんだって。

これを聞いてつくづく感心しちゃった。

男子ってくだらないんだなあって。

そんなあたしだけど、6年のときよりもかわいくなりたいてってひそかな野望があるんだ。

別に美人にならなくてもいいから、たった一人の人に

「好き」

って言ってもらいたい…

あたし、変わりたい。

6月、そして夏休み。

「お前の好きな人だれ？」

「…おまえだよ。」

あたし、告白したんだ。

中学に入って好きになったやつに。

4月に好きになったばっかりなのに。

遊び半分で告白しちゃったよ~~~~!!!!

どうしよう!!

まじめに受け取られちゃったかな!?

しかも直じゃなくてメール!!!

なんてバカなんだろう…。

おっ、メール帰ってきた。

「わかった。おまえが俺のこと好きってことは考えとくよ^^
あとこのことは誰にも言わないで。」

……

だれが言うかあっ!!!!!!!!!!

やっぱりまじめに受け取られちゃったんだ…

どうせうまくいかないにきまつてるんだ、あたしみたいなデブ…。

そのうえ、夏休みまでに返事するからとか言われちゃったら…

もうっっ、どうすればいいの~~~~!!?!?!?!?

「すいません

やっぱり俺はお前のこと好きになれないから

ごめんなさい

これからは友達としてよろしく」

こんなそっけないメールが、夏休みの2日前に届いた。

……やっぱり、振られちゃったな…。

涙が込み上げてきた…。

だめだ！加藤綾かとうあや！！！！

こんなことで泣いてたら女がすたるぜ！！！！

よし、こういうときは男友達だ！！！！

そう思って、廣瀬にメール。

あたしも男に生まれたかったな。

おんななんてなにかとめんどくさいよ。

あたしみたいなおおざっぱな人間が生きていくにはキツすぎる世界だよ…

振られて、そんなことを思いながら終わっていく夏は、まだ暑い日差しが照りつけていた。

9月、そして運動会。

「あついよ~~~~~」

季節は秋。

葉っぱが色づいて、涼しくなってくる頃。

の、はずなのに!?!?!

なんでこんなに暑いのお~~~~!?!?

温暖化を起こした人間!!!!

おまえらのせいであたしは今苦しんでいるんだ!!!!

って、あたしも人間か…。

そう、今、運動会の練習の真っただ中。

暑くて倒れた人を、もう何人見たことか…。

でも、バスケット部だもん！鍛えた体でへこたれるもんか！！！！

気合いと根性はあるんだもんね！

とか思ってたら。

選ばれた人だけが走る、クイーンリレー&キングリレーの練習が始まった。

えっと……ウチのクラスは誰が走るんだっただかな？

えっと確か…佐藤がいたような…。

あたしが考える間にも、どんどんあたしの前を人が走ってく。

あたしのクラスが所属する青組は…。

今のところ4位……って、最下位じゃん！！！！！！

応援しなきゃ!!!!

「行け

!!!!!!

負けてんじゃねえぞ

!!!!!!」

練習なのにこんな大声出してるあたしって・・・

そう思ってたなら。

佐藤が走ってきた!!!!

「佐藤!!!!!!いけ

!!!!!!」

佐藤に聞こえるように、大きい声出した。

聞こえたかな？

ってか・・・・・・・・

今の佐藤！！！！

やばいかったよかったです！！！！！！！！

いや、前からかっこいいなって思ってたよ。

1年のころからね。

今改めて！確信しました！！！！

わたし、加藤綾、佐藤一直線になります！！！！

・・・

あれ？あたし・・・夏休みに失恋したばっかじゃなかったっけ？

・・・自分で自分が笑える・・・

でも一直線になるって決めたからには、頑張らないと！！！！

まずはやせる！…！

といってもあたしは腹が出てるわけじゃないんです…ううう…

足がすっごく！太いの…

百円ショップでぐるぐるする奴でも買っってこようかな…

とにかく頑張っって、佐藤によく思ってもらわなくちゃ…！…！

そう決心した9月は、まだまだ暑さの残る秋。

10月。

「ふあ。」

わたし、机に突っ伏した。

最近、しゃべってないんだ…。

しゃべりたいのに、恥ずかしくなっちゃって

妙に上がっちゃって…。

この前なんか、消しゴム落としちゃって佐藤が拾ってくれたのに、

「あ、ありがとう…。」

っていっただけで終わっちゃうし…。

なんか佐藤もあたしのこと避けてるみたいなんだよね…。

あたしのこと嫌いなのかな？

そういえば、この間の弁当食べてるとき。

玲奈が佐藤になんか聞いていたっけ。

「ねえ、~~~~~は、どじっ？」

「~~~~~」。

なんて言ってるかは聞きとれなかったけど、質問してたな。

菊池玲奈。
きくちれいな

小学5年の時からの親友で、とってもいい子なんだけど、

人の恋に首を突っ込むのが趣味らしいんだよね……。

ちょっと困る人なんです……。

その玲奈がきいたことだから、きっとあたしについての質問なんだろうな。

それで玲奈の口から出た言葉が、

「綾かわいそう。」

は？

なにがかわいそうなの??

ほんとまじめにわけわかんなかったけど、

今佐藤としゃべれてないところを見ると、

佐藤はそのことを気にしているのかな。

そうだとすれば、玲奈がきいたのは
。

「綾のことどっぴり思っっっ。」

こんな質問だろうか？

これはただの想像にすぎないけど…

玲奈に聞いてみよう。

「ねえ、れい…

やっぱり聞けないよ…！！！！

だってもし本当にあんな質問をしていたら！？

怖い

あたし今まで、自分は強いって思ってた。

カエルも蚊もへーきだった。

でもそれは

強いつてことじゃないよね。

ほんとに強かったら、きつと今玲奈に聞けたはず…。

佐藤のことが大好きな綾は、こんなにも弱い子だったんだ

そんなことにきがついたのは、秋も深まる10月真つ盛り……。

ねえ佐藤、あたしはこれからどうすればいい？

どうしたら、この終わりのないトンネルを抜けられるの？

この恋は、疑問だらけだよ……。。

11月

「ねえ、知ってた？ウチの担任で、すごい変態らし
よ！！！！！！」

「ふうん……」

「去年、3年生にいじめられてたんだって。」

「へえ……」

「ねえちょっと！！！！！！人の話聞いてんの！？まったく……」

「ほえ！？え？なに？？？」

気が付いたら、玲奈が話しかけてきた。

「はあ……やっぱり聞いてない……」

「じめん」

「ま、綾が話を聞いてない理由くらい、親友の私にはわかるけどね。
どーせ、さて

「その先は言ったらダメえ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

あたしの大絶叫に、クラスのみんながおしゃべりをやめてこっちを
向いた。

「誰にも言わない約束で、あたしの好きな人教えてあげたんでしょ
」!

玲奈に耳打ちする。

もうその場にいたくなくて、教室を飛び出した。

あたし、加藤綾^{かとうあや}。12歳の中一。いて座のA型。

バスケット部で、ポジションはフォワード。

みんなには「明るくて元気なブラックツッパパ」って思われてるんだけど、

そんなあたしだって、女の子っぽい一面はあるんだよ！

佐藤結城^{さとうむすび}。13歳の中一。ついこの間、誕生日だったこと、最近知っただけど、

なにもできなかった……おめでとうもいえなかった……。

てんびん座のB型で、剣道部の期待の中一。

なんたつて、一年のくせして、県大会にも出ちゃう大物。

番号にも入ってないあたしとは、大違い……

それでも、頭はあたしの方がいいんだよ……!

といつても、あたしは中の上くらい。

実力テストでも、159人中72位っていう成績。

あたしがそれだから……そのあたしより低い佐藤は、結構下の方。

でもあたし、佐藤が本気出したらすごいってこと、知ってるよ。

「キーンコーンカーンコーン」

あっ、チャイムなっちゃった!!!!!!!!!!!!!!

急いで教室行かなきゃ!!!!!!!!!!!!!!

「はあっはあっはあっ……………はあ……………」

ガラッ!!!!!!

勢いよく扉開けて、教室を見渡してみる……………

いない。佐藤が……いない。

馬鹿は風邪ひかないって言葉、あるでしょ？

あれ、嘘。

だって、少なくとも本気を出さなければ馬鹿な佐藤は、

今日からインフルエンザで欠席。

詰まんないな。佐藤がない学校なんて。

生まれながらの美貌を持った人って、ほんとにうらやましいよ……

でも、いつまでもあたしなんかって言うてらんない。

「今日の髪型、かわいいね」

夏澄に言われると、お世辞に聞こえちゃう……

あたしって、ほんとひねくれたいい性格してるなって、思うよ。

「そうお??えへへ」

「やっぱり恋する乙女は違うね〜〜^^」

「そーかなあ……？昨日はさ、今日会えると思って髪の毛セットして寝たんだよ！」

「なのにさあ……あれ見てよ。」

黒板を指差す。

あたしの指の先には、

「認欠 佐藤」

ってネームプレート。

「あ~~~~~…かわいいそうだね」。

「ほんと、あたしってついてないよね」。

「復活するのを待つ！…しかないね。」

「うん……あたしも休みたいよ……」

「そっか……じゃあね^^」

え~~~~~！？そこでいつちやうんだ！？

あ~~~~、悲しー！……

いや、でも！…

ここで明るく生きなくちゃいけない気がする！……！！

加藤綾！前向きに生きます宣言！……！！……！！

したんだけど……。

「げほっ、げほっ」

おえ~~~~~、つらい~~~~~……

そう、あたしも、結局見事にインフルエンザにかかったって、

おまけに、学級閉鎖。

クラスの半分が、インフルエンザになっちゃったんだって。

おかげで、あたしは佐藤に会えない退屈な日々を、

テレビとゲームで過ごすという悲惨な状態。

ううう……

「あ~~~~、も~~~~!!!!」

つまんない~~~~!!!!」

あたし、持ってた本を投げ捨てて、起き上った……けど、

頭痛くて起きあがれない……。

翌日。

すっかり元気になったあたしは、お母さんにお店に連れて行ってもらって、

好きなものをたくさん買って、休み中のうっぶん晴らしをしました

で、その次の日は、バスケットで……

「やつほ〜、久しぶり〜〜〜〜」

久しぶりにみんなに会って、久しぶりのばすけだね〜っ！って話していたのに……

「わるいつ、みんな。なんか、体育館のカギが見つからなくてさあ……」

とか顧問が言い出したの!!!!!!!!!!!!!!

で、結局。

1年生VS 2年生

学年対抗自転車リレー!!!!!!!!!!!!!!

になっちゃうし……………。

私の11月は、とても運が悪いようです……………

いやな気持ちのまま迎える12月……………

少しでも楽しいこと、あったらいいな。

12月。

「だあああああああ……」

一気に、脱力。

12月1日。

実力テスト。

12月の初日からテスト……

「綾、テストどうだった？？」

「もう最悪……！！！！！！とくに社会とか、マジしんでる！」

「あたしも……！社会意味不明だったよね！！！！！！！！！！」

「うん……！！！！は、これ問題？？」って感じ。」

テストできない軍団でしゃべってる、あたし。

もう、テストで今日の分の自分を使い果しました！って感じだったんだけど……

「15分間走やるよ」

は??? ジュウゴフンカンソー??? 何それ?

って思ったら。

「15分走り続けてね」

って先輩が。

はあああああああああ！?!?!?!?!

なんだそれ、精神を使い果たしたこの私に、15分間走れと!?

もう、最初の5分間で疲れてきた。

「うっうっ…こんな調子であと10分も…」

「つらいね …」

みんな、愚痴いまくり。

でも、そのすぐ後。

佐藤がいた。

佐藤が、剣道の素振りをしてた。

遠くから見る佐藤は、とても輝いていて …。

あたしに走る勇気が出てきたのも、佐藤のおかげ。

おかげでその日、休憩しないで15分走ることができた。

佐藤が、あたしに元気をくれたんだよ。

そんな楽しい日々も、もう終わり。

冬休みが来たら、もう来年になることを考えなくちゃいけない。

来年になったら。

来年になっても、今年とおなじに接してくれるの？

今年は、いろんなことがあったね。

佐藤と出会ったのは、今年の4月、サクラが舞う頃。

佐藤のことが大好きになったのは、9月、運動会の季節。

佐藤と距離ができたのは、11月、落ち葉の季節。

そして今は、佐藤のことを想いながら

こうやって、年が明けるのを待っています

。

一月 happy new year!!

「あああああ……」

気の抜けたため息を、一つ。

「もう年が明けちゃったよ〜〜〜!」

「ホントにね。一月から三月って、あっという間だからな〜」

玲奈と話してる。

ただいま、一月八日、金曜日の、10時ごろ。

今日は始業式だったんだ。

正月をおばあちゃんの家で過ごして、

家帰って来てから塾の冬季講習、バスケに行つて……

気がついたら、学校始つてた。

佐藤に会えるから、ちょっとは楽しみにしてたのに…。

席替えて、またどん底に突き落とされた。

(誰と隣かな)

そう思いながら、楽しみに引いたくじの結果は、

高松たかまつの隣。

高松のことだつて、嫌いじゃない。

でも……

佐藤と隣になりたかつたな、つて、

欲張ってるんだ。

それに・・・

今日の佐藤は、暗い。

いつもの明るさは消えて、

まるで、ブラックホールがまわりの悪い運気を吸い取ってるみたい
に・・・

佐藤は、暗かった。

どうしたんだろう・・・

聞きたいけど、

もう佐藤には嫌われちゃったかなとか思ってるあたしだもん・・・

もう関われないかな...

でも、いつも、笑ってくれる相手が佐藤ならいいのに、って、
思っちゃうんだ。

と、そこに！……！！……！！

「よ、何笑ってんの？」

さ、佐藤、登場！……！！

きゃ~~~~~！！

あたしとしゃべりに来てくれた~~~~！！

わけなくて。

「。ーはーにーがー」

「しお」

連れだって、トイレに行っちゃった……

あーあ、つまらないな……

「うえ~~~~~、疲れた~~~~」

「うわ、靴泥まみれになっちゃったよ~~~~」

「のどかわいた！」

今日は、部活が外練だったんだ。

みんなでわいわい言いながら、手を洗いに来た。

ふと、体育館のほうを見て……

ドキッ！……！

(わ、佐藤と目があっちゃった?)

胴着姿の佐藤はまた一段とかつこよくて。

あたし、ほとんどゆでダコ状態。

でも、ずっと見とれてるわけにいかないよね・・・

あっちもあたしのこと見てるっばいし・・・

あたし、その場を離れて、

さっさと友達と帰っちゃった。

「あゝあゝ、最悪・・・。まりなはどうだった??」

「あたしも最悪・・・」

「なんかさ、あの問題ムズくなかった?？」

「うん!! てかさ」・・・

塾のテストの話。

確かに、あたしは問題できなかつた。

だつて!!!

佐藤が、斜め前に座っているんだよ??

気にしないほうがおかしいでしょ。

気になって気になって・・・

最近、佐藤が花梨かりんと仲良くしてる気がするんだ。

理科の席も近くて・・・

いつつもしかべってる気がする。

それも、佐藤はすごく楽しそうなんだよ!!!

ずるいよ・・・

だけど、二人とも何も悪くないんだよね。

あたしが勝手にやきもち焼いてるだけなんだから。

それでも・・・

楽しそうな二人を見ると、ふと、嫌な予感が胸をよぎるんだ・・・

二人は、両想いなんじゃないの？

って。

そんなこと考えるようになってから、

佐藤が近くにいると気になってしょうがない。

みんなといるときは、明るくふるまっても、

一人になると、急に、寂しくなるんだよ。

それならそれで、いいかなって思った。

でも、中途半端な自分が、嫌なの。

ちゃんと、このキモチにけりをつけたい。

そう思った時には、

「happy new year!!!」

とあった日から、

早くも一か月が過ぎようとしていたんだ

。

2月 {happy valentine!!}

“一応聞いとくけどさ。 義理チョコ、いる??”

そう打って、送信ボタンを押す。

そう、高松たかまつに、メールしてみた。

仲がいい男子だから。

それに、今日一緒にバスで帰った幼馴染たちも、欲しいって言うてたし。

だから、高松もいるかなって思って、メールしてみたんだ。

不意に、ケータイが鳴った。

そっと、受信ボックスを開けるボタンを押してみる。

“うん、欲しい(ばんざーい)”

はっ、やっぱり欲しいんだ〜〜（笑）

じゃあ……………

“紫村^{むら}とかも、欲しいのかな??”

ぽちっと、送信ボタンを押して……

思った。

やっぱり、高松と紫村にあげるんなら、

佐藤にもあげるべきかな、って。

最近、ずっと悩んでる。

ず〜〜と、悩んでるよ……

Valentineをのがしたら、もう一生、何もできないような
気がして……

本当に、これでいいの??綾。

後悔は、しないの??

佐藤の友達だけにあげちゃっていいの??

って、心の中の自分が、問うんだ。

あたしは強がりだから、

いいんだよ、これで。

って、自分に言い聞かせて・・・

高松からきたメール。

“うん、ふつーに喜ぶと思うよ”

結局、幼馴染二人と、高松、紫村に、あげることにしたんだ。

バレンタインの日……………

「はいつ、ちよこ^^」

「おう、アリガト」

高松には無事に渡して……

ギクッ!!

ふりむいて紫村に渡そうとして……………

紫村は、友達　　佐藤と、しゃべってたー!!!

(うう…………でもやっぱり、あげるべきだよな???)

しょうがない!!!

「し……し……し……む……ら……は……い……ね……ち……」

「お、おう……さんきゅ」

そのときの佐藤……

あたし、みることができなかった。

だって、佐藤は、きっと、あたしが佐藤のコト好きだって、知っているよね？？

きっと、玲奈とかいっちゃったよね？？

もし知ってたとしたら……

なんで俺のコト好きなのに、くれなかったのかかと思ってたかもしれないし……

って、そんなこと思ってないか^^；

ま、佐藤の前で緊張したけど一応一人にも渡せたし・・・

一件落着・・・・・・・・

そして、2月のもうひとつ大事な行事といえば！！！！

毎年恒例の、中学一年生スキー合宿。

みんなががやがややりながら、バスの中。

あたしは玲奈と隣の席にしたんだ。

で、ガイドさんに

「このバス、カラオケできますかあ〜〜？？」

って聞いてみた。

そしたら、

「できますよ^^」

っていつてくれた

だから、玲奈とあたしは、交代しながら、思う存分歌って・・・

あたしは、佐藤が聞いてくれると願いながら、ラブソングをたくさん歌ったよ。

そして、スキー場に着いてから、

たくさん滑った。

佐藤、見てくれてるかな・・・？

って、いつだって、考えるのは佐藤のことだ...

佐藤の番号は、みた瞬間、頭の中にインプットされたよ。

93番。

ゼッケン番号93番の人は、とつても、がんばってた。

初心者だったけど、すごく頑張ってた。

一生懸命頑張ってる佐藤は、とてもかっこよかったよ。

あたしは、いつだって、がんばってる佐藤から勇気をもらってきた。

バスケットでつらいことだって、全部、乗り越えられたよ。

ねえ、佐藤？？

佐藤は・・・誰に勇気をもらってるの？？

あんなに剣道がんばって・・・

得意じゃないことだって、一生懸命やって・・・

花梨かりんにもらってるの・・・？

佐藤について知ってること、全然ないよ・・・

もっと、佐藤のコト、知りたい・・・

3月 4月 〱修了式、そしてエイプリルフル〱

「以上、160名の卒業を許可する。」

三年生は、たったいま、中学校を、卒業したんだね。

佐藤のお兄ちゃんも、そう。

佐藤とお兄ちゃんは、とっても仲が良くて・・・

いっつもいっしょだったね。

前に聞いたとき、佐藤は

「兄貴嫌い」

って言っていたけど。

でも、剣道部で、お兄ちゃんから、佐藤が教わったことは、たくさんあるでしょ？

仲のいい男兄弟って、いいなあ・・・って、

あなたたちを見て、思いました。

そのお兄ちゃんも、卒業して・・・

泣いてた。

佐藤のお兄ちゃんのクラスのみんな、泣いてた。

きっと、いいクラスだったんだね。

あたしも、卒業するときに泣けるくらいの、いいクラスになりたい。

できれば、今のクラスで。

だけど、クラスがえだから、今のクラスでっていうのは、無理だよ
ね。

じゃあ、せめて、佐藤と同じクラスで・・・

感動できる卒業式になれるように、

感動できる思い出、心に残る思い出、

いっぱい作りたいたいよ・・・

佐藤と過ごした一年間。

振り返ると、

たくさんのがあつたよね。

4月。

佐藤と会って、クラスのみんなど会って、

勝手にヘンなあだ名つけられて。

その名も、「ブラックパパ」。

佐藤は噛みそうになりながら、授業中も必死に、

その名前を繰り返してたこと、

鮮明に覚えてるよ。

うれしかったよ、すごく。

でもそのころは、あたしが佐藤に話しかけても、

「ブラックツッパは黙ってる!!」

って、相手にしてくれなかったよね。

そんな佐藤が、いきなり変わったのは、9月、運動会の頃。

佐藤がめずらしく床なんか拭いていたから、

「水筒こぼしたの??」

ってきいたら

「うん、おとしちゃった」

って返ってきて。

あれにはびっくりしたなあ・・・

あたしが今まで話しかけてた時の態度とは全然違ったもん。

それから・・・

だんだん仲良くなって・・・

たくさんしゃべるようになったよね。

掃除の時とか。

技術の時とか。

話しかけてくれるようになったよね。

もちろんいつまでもあだ名だったけど・・・

あ、違う、ある時突然、名字で呼んでくれるようになっただけ。

「加藤さん」

ってなぜかさん付けだったけど。

ほんとうに、思い出してみると、たくさんの思い出が、できた。

あたしだけかもしれないけど・・・

心の引き出しにしまっておくね。

そう。

今日は、修了式。

一年間お世話になったみんなと、ほんのひと時「バイバイ」。

そして、春休みが明けたら、

あたしたちは、1年生から、2年生 先輩に、なる。

恋は幼稚だったかもしれないけど、

学年は、どんどん大きくなっていくんだね。

もう、佐藤とも、さようならかもしれないね。

2年になったら、クラス離れちゃうかも・・・

でも、ほんとうに、楽しい中学校一年生生活を、ありがとう。

佐藤には、ほんとうに、感謝してる。

佐藤がいたから、

こんなに楽しくて、

こんなにうれしくて、

こんなにドキドキして、

こんなに切なくて、

こんなにつらくて、

それでも、人は人を好きでいられるってこと、学んだんだよ。

いっぱい泣いて、いっぱい笑って、

いろんなこと、学んだんだよ。

最後まで、叶わなかったけど、

いろんなことを経験できる恋を、させてくれて、ありがとう。

さよなら

あたしの初恋。

春休み 4月1日。

エイプリルフル。

今日は、部活の日。

しほと待ち合わせして、自転車で学校へGO

学校についてみると・・・

まほがいた。

それと・・・

それと？

剣道部の2年生???

「なんで剣道部がいるんだろう??」

「今日バスケット部のはずなのにね。」

って、まほとしほと言っていたら。

ほどなくして、剣道部の先生が来た。

「あ、今日、剣道とバスケット、一緒だから。」

クールにそう言い残して去って行ったんだけど・・・

えええええ!!!!???

じゃあ、佐藤といっしょじゃん!!!

嬉しかったけど、もう他人だもんね。

そう、自分に言い聞かせて・・・

だけど、体は勝手に、外を向く。

佐藤、来ないかなあって。

先輩、今日は機嫌いいみたい

「スクエアパス、やりたくない人ー??」

つてきいて、みんながやりたくないほうに手をあげたら、やらなかつた!!!

佐藤が来たのは、ゾーン練習してるとき。

あたしフォワードでディフェンスしてた。

でも、佐藤来た瞬間、

ドキッ！

ってなって、目が佐藤のほうしか向かなくなつて・・・

先輩に、何回も、注意された。

それでも、佐藤のほう、見てた。

ズーッと、佐藤に見とれて、時間が過ぎていって・・・

だって、剣道やってる時の佐藤、すっごく！！！！！！

かっこいいんだもん！！！！

きっと、剣道着が世界一似合うのって、佐藤だと思つ。

それに、休み時間。

みんな、剣道部の人たちおしゃべりしてるのに、佐藤はひとり、

壁に寄り掛かって、水筒飲みながら何か考えごとしてた。

で、たまにこつち見てきたり?!?!?

あたしも、佐藤のほう見てたから、今のって、ある意味、

見つめあってた ????

とか考えてみたりね。

遠かったから、あまり恥ずかしくなかったけど。

ほんとうに、佐藤のことばかり考えてたから、あつという間に部活が終わっちゃった。

それで、外でバツシュを靴に履き替えて、ウインブレを履いてたとき。

ふいに、手を掴まれて、引っ張られた。

走って、ついた場所は・・・体育館裏。

手を引っ張った相手は・・・

・・・

「ええ！！！！？？？？佐藤！？！？！？」

「なんだよ、その反応。」

「えええ、だって・・・何の用よ、あたしなんかに。」

「こついつとき、素直になれないのが、あたしで・・・」

「あたしなんかにだと！？！？！？」

「すぐ、怒るのが、佐藤。」

しばらく、見つめられて・・・

あたしが、耐えられなくなって、口を開いた。

「だから・・・なあに????」

佐藤は・・・しばらくして、口を開いて・・・

「おれに見とれて、先輩に怒られてんじゃねえよ!」

って言って・・・

そのあと、急にまじめな顔になって。

「ごめんなさい、そんなこと、思ってます・・・

お、俺・・・前から、お前のこと・・・

加藤のこと、好きだったんだ。

ずっと言えなくて、ごめん・・・」

あたし、言葉が出なかった。

佐藤、あたしが佐藤に見とれて怒られたって、知ってた・・・

そして、佐藤は、あたしのことが、好きだった　　???

どうしても、信じられなくて・・・

「今日、エイプリルフールだもんね~~~~

そんな嘘、嘘だってバレバレだっ~~~~（笑）」

って、かるく笑い飛ばしてみたけど。

佐藤の真剣な顔はいつまでも笑わなくて。

ふいに。

唇に、柔らかいものがくっついた。

それが、佐藤の唇だと思つまでに、10秒はかった。

唇が離れて・・・

佐藤は、

「これで信じた？？」

っていった。

あたしは、びっくりしたけど、うなずいて・・・

「あたしも、ずっと、佐藤のコト好きだった・・・！！！」

っていった。

佐藤は、微笑んでくれた。

あたしも、微笑み返した。

そして、心が通じ合ったあたしたちの前に、サクラの花びらが、ひとひら、

すう〜と、風に流れていったよ。

叶わないと思っていた恋。

最後の最後で、叶いました・・・

佐藤。

これからは、ずっと・・・一緒にいてくれるよね？

END

3月 4月 〱修了式、そしてエイプリルフル〱（後書き）

読んでくれていた方がいるかどうかわかりませんが、
なんとか無事、最終話まで書き終えました！

とくに最終話は長くて大変でしたが…

ぜひ、読んでもらえたら嬉しいです。

ほんとうに今まで、ありがとうございました

！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0220j/>

恋する 乙女の 底チカラ

2010年10月11日16時21分発行